

**令和4年度**

**荒尾市の教育に関する事務の管理及び  
執行の状況に関する令和3年度事業  
点検・評価報告書**

**令和5年3月**

**荒尾市教育委員会**

## 荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価

### 1. 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、荒尾市教育委員会がその権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価を行い、その結果に関する報告書を公表し、市民に信頼される効率的・効果的な教育行政の推進を目的とする。

### 2. 方法及び基準

(1)「荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価実施要綱」に基づき、事業ごとに「必要性」「効率性」「目標達成度」について基本評価を行い、これをもとに今後の方向性として総合評価を行う。

#### (2) 評価基準

##### ①基本評価（必要性・効率性・目標達成度）の基準

評価項目	評 価		評価の視点
必 要 性	A	市民等のニーズが高く必要な事業である	○市民や対象事業者等にとって必要な事業か  ※目的の妥当性、市民のニーズ ※他に類似の事業はないか
	B	法令等で定められ、またはある程度ニーズがあり必要性が高い	
	C	市民等のニーズはあるが、実状に適應しなくなっている部分がある	
	D	市民等のニーズや実状に全く適應しておらず不要な事業である	
効 率 性	A	実施手法は適切で、見直す必要はない	○事業実施の手法は適切か  ※事業費に見合った成果が得られているか ※類似の事業を実施している他の自治体等と比べてどうか
	B	実施手法は概ね適切である	
	C	実施手法は概ね適切であるが、一部見直しが必要である	
	D	実施手法を大幅に見直す必要がある	
目 標 達 成 度	A	十分達成できた	○計画及び目的通りに目標を達成できたか
	B	概ね達成できた	
	C	やや不十分であった	
	D	不十分であった	

②総合評価（今後の方向性）の基準

総合評価	評 価	
	A（拡 充）	十分な事業水準にあり、かつ必要度も高く、事業の拡充が必要
	B（継 続）	一定の事業水準にあり、今後も効率化を図りつつ、現在の事業水準を維持する
	C（見直し）	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等の見直しが必要
	D（完 了）	事業が完了
	E（廃 止）	事業を廃止

3. 対象事業

点検及び評価の対象とする事業は、教育委員会の権限に属する予算事業を対象。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価一覧

事業名	事業の目的（目標・効果）	事業の内容	担当部署	事業の対象者	事業費 (千円)		基本評価			総合評価	評価の説明等
					R3	R2	必要性	効率性	目標達成度		
1	ピロリ菌検査事業 (事務局管理費内)	市内中学3年生の同意者を対象とし、学校健診の尿検査と併せてピロリ菌検査を行う。「陰性」「陽性疑い」を問わず、検査結果並びに精密検査及び除菌が可能な医療機関の情報を保護者へ通知する。「陽性疑い」となった生徒へのアフターフォローと精密検査と除菌までの進捗状況について確認を行う。	教育振興課 (学務係)	荒尾市の中学校に通う3年生の同意者	334	304	C	B	B	C(見直し)	令和元年度から新規事業として、市内中学3年生の希望者に検査を実施している。在籍者の約90%の生徒が同意し、受診した。予防医療の意識付けと併せて啓発を行っているが、陽性疑いの割合が低く、医療機関において「この時期にこの検査を行うことが適当なのか」という意見もあることから、事業継続の必要性も含めて今後見直しが必要である。
2	語学指導外国語青年招致事業	ALTを市内の小中学校に配置し、外国語科等指導の補助、国際理解教育の補助、児童生徒の課外活動への参加及び協力、地域における国際交流活動への協力等に従事する。	教育振興課 (学務係)	市内小中学校児童生徒	22,466	24,059	A	B	B	A(拡充)	令和3年度においては1名が帰国したが、その後新規任用することができず、4人体制で事業を遂行した。4人体制となったが、5人体制時と同様に、英語スピーチコンテストの個別指導や英検受験に向けたヒアリングの指導などのきめ細かな指導が実現できた。また、教員への発音指導を行うことにより授業力の強化等につながり、本市における外国語教育の更なる充実を図ることができた。 更に、英語リスニング機会の充実だけでなく、学校生活の面においても外国の文化や習慣等についても学ぶことができるなど、国際理解教育の充実にも寄与した。 今後は、未就学児への英語教育の充実を図るためにも、更なる事業の拡大を図る必要がある。
3	特別支援教育総合推進事業	研修会・講演会の開催や、保育園、幼稚園及び小中学校において、特別な支援が必要と思われる児童生徒がいる場合に、要望により巡回相談を行う。	学校教育課 教育振興課	障がいのある幼児・児童・生徒	17	6	B	B	B	B(継続)	特別支援連携協議会を組織し、研修会・中学校区毎の会議を実施した。夏休みの地区コーディネーター会議、11月の特別支援連携協議会の講演会は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。
4	授業改善アドバイザー事業	市内の教職員を対象に、あらおベーシックの質的向上について共通理解を図り、今後の授業改善の方向性を確認し、教職員の授業力向上を目指す。	学校教育課	市内教職員	650	1,455	A	A	B	B(継続)	「あらおベーシック」の理念をもとに更にICT機器の活用と協働的な学びを通して深い学びにつなげる過程を重視した「進化型あらおベーシック」の教職員の共通理解と推進を図った。市内全校で取り組むことで、子どもたちは、授業を主体的に創り、対話を通して協働的な学びがそれぞれの学校に応じてできている。
5	【事業名変更・拡充】 英語教育充実事業費	市内中学校の1年生から3年生を対象に実用英語技能検定(英検)の希望級の受験料を荒尾子ども未来基金、県からの補助金を活用して市が負担し、生徒全員が英検に取り組み体制を構築することで、日頃の英語学習意欲向上及びコミュニケーション能力向上のきっかけとする。 合否以上に、皆でそれぞれに合った目標に向けて努力することで、英語への関心を引き出し、学習意欲の向上を目指す。 市英語教育研究会の活動を充実させるために、講師を招いてスキルアップ研修を実施したり、授業研究会を行ったりして英語担当者の授業力の向上を図り、各学校に広めていく活動を行う。	学校教育課 教育振興課	荒尾市の中学校に通う中学生	4,009	3,237	B	B	B	B(継続)	今回の英検受験については、年3回の英検受験機会のうち、3年生は第2回の10月8日、1年生及び2年生は第3回の1月21日での受験とした。希望級を受験可能とし、受験生の多くは1年生は5級、2年生は4級、3年生は3、4級を受験した。 受験後の生徒向けアンケートでは、「生徒全体で意欲的に取り組めた」という意見があがった。また、学校向けアンケートでは、授業やテストの中で過去問や対策問題に取り組ませたり、ALTやネイティブ発音CDを活用したりリスニングの向上など工夫がみられた。英語教育の充実のため、市内全教職員対象に研修会を2回計画した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大のため第1回を中止し、第2回を11月5日に荒尾海陽中学校で長洲中学校富田孝司教諭を招聘し教員のスキルアップを図った。
6	新型コロナウイルス対策事業費(教育)	教育委員会事務局及び学校の感染拡大の影響による教育委員会の感染症対策及び学校等の一斉臨時休業からの再開等に際し、基本的な感染対策を継続する「新しい生活様式」を導入するとともに、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り、教育活動を継続し、子どもの健やかな学びを保障する。	教育振興課 (教育政策係)	市内小中学校児童生徒・教職員	11,824	28,571	A	A	A	B(継続)	令和3年度は国・県の新型コロナ関連の交付金を活用し、パーティションの追加整備や小中学校の要望に沿った衛生用品等の配備を行い、教育委員会事務局及び学校の教育活動において、「新しい生活様式」に取り組み、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止につなげた。また、所管する学校において、感染拡大事例もなく教育活動を行うことができた。
7	小学校施設改修	学校施設のトイレ及び排水設備からの水漏れ、ガラス割れ、万田小運動場排水工事設計、緑ヶ丘小学校体育倉庫修繕、万田小学校高圧ケーブル修繕、中央小学校体育館床修繕、LED設置工事(一小、万田小、八幡小、緑ヶ丘、中央小)、遊具修繕、消防設備の更新、樹木伐採等を行う。また、新型コロナウイルス感染症対策として、トイレ・手洗い場への自動水栓の設置等、学校施設の改修を行う。	教育振興課 (教育政策係)	小学校施設利用者	120,421	247,633	A	B	B	B(継続)	学校施設においての様々な不具合箇所については学校からの要望を精査し財政面を考慮した調整を図り、計画的に補修改修を行った。学校内のコロナ感染対策として、資材不足により令和2年度に設置できなかった箇所水道蛇口自動水洗化を行った。また、万田小運動場排水工事の設計や令和2年度から実施しているLED工事について、令和3年度の対象校に整備を行った。万田小の運動場排水工事については、令和4年度に繰越して実施することとなった。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価一覧

事業名	事業の目的（目標・効果）	事業の内容	担当部署	事業の対象者	事業費 (千円)		基本評価			総合評価	評価の説明等
					R3	R2	必要性	効率性	目標達成度		
8 荒尾市就学援助事業	経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学にかかる費用の一部を援助し、義務教育の円滑な実施に資する。	新入学児童生徒学用品費、学用品費、通学用品費、校外活動費、通学費、修学旅行費、学校給食費、医療費を支給する。	教育振興課 (学務係)	対象世帯	49,109	43,538	A	B	A	C(見直し)	令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響による家計急変世帯や、令和2年7月豪雨被災世帯についても対象とした。就学援助を受けている児童生徒数(生活保護を含む。)は、全校児童生徒の約15%(令和2年度約13%)にのぼり、本事業は経済的理由によって就学が困難と認められる児童生徒の支援に役立っている。令和3年度から判定基準を一部簡素化したことにより業務効率が大幅に上がった一方、申請書類の不備等があることで、審査業務が煩雑になりやすい。効率的かつ市民に分かりやすい制度となるよう見直す必要がある。
9 市教委指定研究推進事業(小学校)	市内小中学校の児童生徒の学力向上及び健全な心身の育成を図る。	【3年目指定：府本小学校】 学校及び地域の実態に即して、実践的に研究を推進する。また、その研究成果を発表することにより、市内の教育の振興に資する。	学校教育課	市内小中学校教職員・児童生徒	260	260	B	B	B	B(継続)	研究指定3年目である府本小学校においては、「主体的に考えを持ち、自信を持って共有する児童の育成～総合的な学習の時間と各教科等との相互作用を通して～」を研究主題として、教科学習において、起業体験活動の取組(ふもとマルシェ)との関連をキャリア教育の視点からとらえ直した授業を構成し、研究授業を行い、あらおベーシックによる授業実践で、児童による主体的な授業展開を行った。当初の予定では令和2年度に研究発表会を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和3年度に延期した。令和3年度も同様に新型コロナウイルスの影響があったが、オンライン発表会という形に変えて実践を発表することができた。
10 市教委指定研究推進事業(中学校)	市内小中学校の児童生徒の学力向上及び健全な心身の育成を図る。	【2年目指定：荒尾第三中学校】 学校及び地域の実態に即して、実践的に研究を推進する。また、その研究成果を発表することにより、市内の教育の振興に資する。	学校教育課	市内小中学校教職員・児童生徒	130	130	B	B	B	B(継続)	研究指定2年目である荒尾第三中学校においては、「多様性を尊重し、一人一人に心の居場所のある学校づくり～一人にこだわって、チームで対応する取組をとって～」を研究主題とし、子どもの居場所作りに関する研究を進めてきた。適応指導教室「ハートフルルーム」の取組では、市内では不登校児童生徒数が増加する中、その増加が見られなかった。令和3年度には、荒尾第三中学校ではいかにしてその増加を防いでいるのかについて、11月に研究発表会にてその実践を発表することができた。
11 特別支援教育支援員事業	特別支援学級の児童生徒に対する、日常生活の支援。また、発達障がいと思われる児童生徒に対する学習活動上の支援を行う。	「特別支援教育支援員」を全小・中学校に配置し、支援の必要な児童生徒を適切に支援する。	学校教育課 教育振興課	市内小中学校児童生徒	49,377	48,883	A	B	B	B(継続)	平成24年度までは国の緊急雇用創出事業を活用して任用していたが、平成25年度からは市単独事業として任用。令和3年度は、小学校に31人、中学校に12人配置し、昨年と比較すると小中学校合計では同数の配置状況となっている。特別支援学級に通う児童生徒及び普通学級に在籍している支援を要する児童生徒に支援を行う事で、概ね落ち着いた学習環境をつくることのできた。今後は更なる支援員のスキルアップを図る必要がある。
12 スクールソーシャルワーカー運営事業	いじめや不登校、暴力行為、非行などの児童生徒の問題行動が深刻化することを防ぐため、児童生徒が置かれている様々な環境に働きかけたり、学校だけでは対応困難な事例等に対して、関係機関と調整・連携を図りながら子どもを取り巻く環境の改善を図る。	(1) いじめや不登校などの問題を抱える児童生徒に関する状況把握 (2) 学校、家庭、関係機関等による連携ネットワークの構築及び連携のための連絡調整 (3) いじめや不登校などの問題についての事例対策検討会(ケース会議)への支援 (4) 保護者、教職員等に対する支援、相談及び情報提供 (5) 心の教室相談員等の活動への支援及び協働 (6) 児童生徒、保護者等に対する教育相談 (7) 小・中学校における校内研修等への支援 (8) その他S S Wの設置の趣旨を踏まえ、教育委員会が必要と認めること。	教育振興課 (学務係)	市内小中学校児童生徒	4,591	1,170	A	B	B	B(継続)	令和3年度において、訪問活動378回、ケース会議52回の適切な支援を行い、対象児童生徒の人数は、小学生延べ317人(実人数45人)、中学生延べ293人(実人数28人)であった。その中でも、訪問活動に力を入れており、対象児童のみならず家族支援を含む家庭全体を支援して、改善傾向が見られた。
13 コミュニティ・スクール推進事業	学校運営及び教育活動に「地域の声」を反映させることで、より充実した学校教育を目指すとともに、学校運営協議会を核として学校と地域が連携することで、地域の教育力の向上及び学校や地域の活性化を図る。	荒尾第一小学校、緑ヶ丘小学校、桜山小学校の3校に設置。具体的目標としては、学校運営協議会年間計画の策定、学校支援ボランティアの活用推進など。	学校教育課 教育振興課	荒尾第一小学校・緑ヶ丘小学校・桜山小学校	112	134	B	A	B	A(拡充)	荒尾第一小学校学校運営協議会と緑ヶ丘小学校運営協議会、桜山小学校運営協議会において、年5回ずつ(コロナ禍による書面開催を含む。)会議が開催された。年間計画に基づく学校支援体制の確立や人材育成、学校評価及び広報など効率的に協議を行った。今後も学校と地域が連携し、開かれた学校づくりを目指し取組む必要がある。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価一覧

事業名	事業の目的（目標・効果）	事業の内容	担当部署	事業の対象者	事業費 (千円)		基本評価			総合評価	評価の説明等
					R3	R2	必要性	効率性	目標達成度		
14	コミュニティ・スクール導入事業費	学校運営及び教育活動に「地域の声」を反映させることで、より充実した学校教育を目指すとともに、学校運営協議会を核として学校と地域が連携することで、地域の教育力の向上及び学校や地域の活性化を図る。	学校教育課 教育振興課	荒尾第一小学校・緑ヶ丘小学校・桜山小学校以外の10校	2,536	2,605	B	B	A	D(完了)	未設置であった小中学校10校において令和4年度から学校運営協議会が設置され、市内小中学校全校(13校)における当協議会の設置を達成した。
15	小中学校ICT環境整備事業費	学習指導要領改定により、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」のある授業が求められたことから、H30.10月に策定した「荒尾市教育ICT整備計画」及び令和元年12月に文科省が提示した「GIGAスクール構想の実現」に基づき、ICT機器等の整備することで、分かりやすい学習内容の提示並びに意見の交換、整理及び発表等の能動的な学習の推進を図る。	教育振興課 (教育政策係)	市内中学校教職員・児童生徒	138,292	438,525	A	A	A	B(継続)	令和2年度に整備したタブレット端末等(端末と合わせてLTE通信、サポート、学習用ソフトウェア等ライセンスを一体的に整備。)や、校務効率化のために導入した校務支援システムなど、学校のICT化に向けた環境整備・維持を行った。 また、ICT支援員の増員(2名→4名)、独自に管理職研修やリーダー研修の実施など、活用を推進するための環境の構築を行うことができた。
16	小中学校子ども未来文庫整備事業	子ども未来基金を活用して学校図書室の充実を図り、学校図書室の計画的な利用と読書活動を推進し、学力向上につなげる。	教育振興課 (教育政策係)	市内小中学校児童生徒	2,580	2,513	A	A	A	B(継続)	寄付金を活用して各小中学校が図書を選定して購入することで図書室の充実及び全小中学校が1紙以上の新聞購読を行うことでNIE(新聞を教材として活用する活動)の推進を図ることができた。
17	中学校施設改修	本市の中学校施設の6割は築30年以上経過しており、老朽化が著しい。学校施設は、生徒等が一日の大半を過ごす活動の場であることから、継続的かつ計画的な修繕及び改修を行うことで、現状を少しでも改善し、教育環境の整備充実を図る。	教育振興課 (教育政策係)	中学校施設利用者	27,605	20,682	A	B	B	B(継続)	学校施設における様々な不具合箇所等については学校からの要望書を精査し財政面を考慮した調整を図り、計画的に補修改修を行った。 また、消防設備等の更新やLED工事については、学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な整備を図った。
18	【新規】教育振興基本計画策定事業費	平成29年度から令和3年度までを計画期間とする「荒尾市教育振興基本計画(第1期)」の計画期間が令和3年度で満了することから、令和4年度から令和8年度までを計画期間とする「第2期荒尾市教育振興基本計画」の策定し、本市における教育振興への取組を推進する。	教育振興課 (教育政策係)	荒尾市民	4,799	0	A	B	A	D(完了)	第2期荒尾市教育振興基本計画策定に当たっては、市民や教職員を対象としたアンケート調査を実施し、ニーズの把握に努めた。また、計5回の策定委員会を開催し、学識経験者や学校関係者などにより専門的見地から審議を行うとともに、教育委員会会議やパブリックコメント等からの意見を反映し、より実効性の高い計画となるよう努めた。 業務遂行に当たっては、業務委託を活用し、令和4年3月に計画策定を行うことができた。
19	心の教室相談員事業	不登校児童生徒の解消及び悩みや不安を抱える生徒に対する相談活動。	学校教育課	市内中学校教職員・生徒	1,654	2,036	B	B	A	B(継続)	学級担任だけでは、生徒の悩みや不安を解消することは困難で、心の教室相談員の活動は子どもの居場所づくり推進の観点からも有効である。教室で学習することのできる児童生徒を一人でも多くするために、関係機関と連携する「学校の中核」としての取組を継続していく。
20	小袋教室事業	心理的理由又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰のための指導及び支援。	学校教育課	市内小中学校児童生徒	3,289	2,681	B	B	B	B(継続)	小袋教室での学習を通じて、学校への部分登校や学校行事に参加することができるようになった児童生徒、学校に復帰することができた児童生徒もいるが、そのほか、支援を必要とする生徒も多い。
21	【新規】中学校フリースクール事業費	心理的理由又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰のための指導及び支援。	学校教育課	荒尾第三中学校の生徒	5,267	5,118	A	A	B	A(拡充)	不登校対策は全ての学校において課題であり、これまでは校内別室や小袋教室に通学できる生徒のみの対応となっていた。しかしハートフルルームの設置により、学校から家まで迎えに行くなどのアウトリーチ型の支援ができるようになり、荒尾市内の不登校児童生徒数が年々増加の一途を辿っているのに対して、荒尾第三中学校においては増加が見られなかった。
22	地域未来塾事業費	「家庭での学習習慣や基礎学力が十分に身につけていない」などの理由から、授業内容を理解することが難しい生徒を対象に、学習機会を提供し学習支援を実施することで、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。対象となる生徒にとって、授業内容を理解することが難しい原因を集中的に強化することで、その生徒の学力向上に直接つなげるだけでなく、生徒の「わかった」、「できた」を引き出し、学習意欲向上にもつなげていくことを目的とする。	教育振興課 (学務係)	市内中学生	2,128	3,163	A	B	B	B(継続)	コロナ禍の影響により、9月及び2月以降の開催を自粛したため、1校平均30回程度の開催となった。各中学校において地域未来塾を実施したことにより、対象生徒が志望校への合格を果たせたなどの実績を上げることができた。 実施後に対象生徒、コーディネーター及び学習支援員へのアンケートを実施したが、その回答にも、楽しかった、もっと勉強を頑張りたい、先生の教え方が分かりやすかった、教えていた生徒たちが無事に高校へ合格していた姿を見てうれしかったなどの回答が多く寄せられた。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価一覧

事業名	事業の目的（目標・効果）	事業の内容	担当部署	事業の対象者	事業費 (千円)		基本評価			総合評価	評価の説明等
					R3	R2	必要性	効率性	目標達成度		
23 給食センター管理費	安心・安全でおいしい給食の提供を目標に異物混入防止対策を中心とした施設・機械器具等の老朽化の改善、学校給食衛生管理基準に基づく食品取扱いや衛生管理体制の充実。	安心・安全でおいしい給食の提供のため、各種衛生検査を実施するとともに、納入業者を対象とした食品衛生講習会を開催し、食中毒予防に努める。また、異物混入問題発生から、荒尾市学校給食用食材に関する検討委員会の充実を図り、高品質の商品確保に努める。調理・配送等の業務委託。	給食センター	荒尾市・長洲町の公立学校関係者（支援学校含む）	131,249	122,679	A	A	B	B（継続）	各種衛生検査の実施及び納入業者への食品衛生講習会の開催。業務委託により経験豊富な指導者の元、衛生管理に必要な知識・技術の向上を図り、食中毒予防に努めた。 現施設については、老朽化が進んでいるところではあるが、学校給食衛生管理基準に沿って、安心・安全でおいしい給食の提供に努めた。
24 給食センター施設改修費	学校給食衛生管理基準に沿った施設の安全管理及び維持。	安全衛生管理及び維持のため施設整備。	給食センター	荒尾市・長洲町の公立学校関係者（支援学校含む）	717	1,810	A	B	B	B（継続）	学校給食衛生管理基準に沿った施設設備及び機械器具等の改善計画を基に施設改修と機械器具等の更新及び雨漏り修繕を行った。
25 学校給食費無償化事業費	将来を担う子どもたちの成長を市民全体で支えることで、安心して子育てが出来る街を目指し子育て世代の経済的負担を軽減する。	平成29年度10月から小学校の給食費を荒尾市で補助する。	給食センター	小学校に在籍する児童の保護者で、荒尾市内に住所がある方	100,855	100,863	A	A	A	B（継続）	子育て世代の経済的負担を軽減し、安心して子育てが出来るまちづくりに繋げていくため継続して行う。
26 給食センター整備推進事業費	老朽化した学校給食センターの建て替え。	（仮称）荒尾市・長洲町学校給食センター新築工事。 地方自治法252条の2の2の規定による法定協議会「荒尾市・長洲町学校給食センター協議会」による運営。	教育振興課（学校給食センター整備推進室）	荒尾市・長洲町の公立学校関係者（支援学校除く）	1,326,792	42,287	A	A	A	B（継続）	国の令和2年度補正予算を活用し、（仮称）荒尾市・長洲町学校給食センター新築工事を着工した。 令和4年9月からの稼働開始に向け工事を進める。 また、令和4年3月には荒尾市・長洲町学校給食センター条例を策定し、名称を荒尾市・長洲町学校給食センターとした。
27 社会教育振興費	社会教育団体支援の業務を遂行し、社会教育団体の円滑な活動を補完する。	社会教育団体に対し、補助金交付等の金銭的援助や活動補助等の人的支援を行う。	生涯学習課（社会教育係）	社会教育団体	2,651	3,240	A	A	A	B（継続）	発明クラブは、市内の小学4年生から中学3年生が加入できる昭和61年度発足した県内初のクラブで月に2回程度活動している。定員は50名で令和3年度は47名が加入した。コロナ禍の中、活動日数や活動内容の制限もあったが、子どもたちは木工やロボットなどの製作に一生懸命に打ち込んでいた。
28 放課後子ども教室推進事業	県の補助事業（地域学校協働活動推進事業）を活用し、放課後の空き教室等で子どもたちの安心・安全な活動場所を確保し、地域の方々の参画のもと、学習や体験・交流を行うことで地域の教育力の向上を目指す。	実施時期：9月～2月 ※例年は6月開講。令和2年度はコロナにより開講日延期。 実施日：【八幡小】水・木 【有明小】火・水 【桜山小】火・金 通常活動：宿題、工作、折り紙、スポーツなど 体験活動：七夕飾り、読み聞かせ、月見団子づくり、書き初め、恵方巻きづくりなど 八幡小（平成21年度～） 有明小（平成24年度～） 桜山小（平成19年度～）	生涯学習課（社会教育係）	有明小1～3年 八幡小1～3年 桜山小1～2年の児童	544	826	B	A	A	B（継続）	令和3年度は、県ボランティア派遣による体験活動や市立図書館、中央公民館、湿地センターと連携した体験活動、地域団体と連携したレクリエーション等を実施した。また日本財団とも連携し、荒尾の海や生き物について学び、大地の恵みであるふりかけも製作した。郷土について深く学んだことは児童にたいへん好評だった。 今後他事業・他施設等と連携することでより多くの地域の大人と子どもたちの交流を図っていく、荒尾市への地元愛醸成にも繋げていきたい。 令和3年度参加児童：41名 （八幡小11名、有明小17名、桜山小13名）
29 学校支援地域本部事業	県の補助事業（地域学校協働活動推進事業）を活用し、地域と学校が連携・協働した活動を実施する。地域全体で子どもたちの成長を支えることで地域の教育力の向上を目指す。	県の事業を活用し、荒尾海陽中学区内の小中学校においてボランティアによる各種授業（家庭科、校外学習、農業体験等）、学校図書の整理、クラブ活動の指導等を行っている。	生涯学習課（社会教育係）	荒尾第一小 万田小 有明小 清里小 荒尾海陽中の児童生徒	284	328	A	A	A	A（拡充）	令和2年度から行っている「地域の人づくり講座」等を通して地域学校協働活動を推進するための環境づくり、推進員の資質向上等を図ることが出来た。（例：農業体験、図書室の整理、職業講話等） 令和3年度推進員を通して参加したボランティア人数：5,223人（令和2年度：2,686人）（令和元年度：5,233人） また、地域学校協働本部を設置し、第1回の会議を開催。地域と学校をつなぐ地域学校協働推進員と学校連携担当教職員とで情報を共有し、コミュニティスクールとの一体的な取組の推進や活動の円滑化が図られた。
30 学校支援地域本部事業（拡充分）	地域と学校が連携し・協働した活動を実施する。地域全体で子どもたちの成長を支えることで地域の教育力の向上を目指す。	平成29年9月より市事業として、荒尾第三中学校区、荒尾第四中学校の小中学校においてボランティアによる各種授業（家庭科、校外学習、農業体験等）の補助、学校図書の整理、クラブ活動の指導等を行っている。	生涯学習課（社会教育係）	平井小 中央小 緑ヶ丘小 荒尾第三中 府本小 八幡小 桜山小 荒尾第四中の児童生徒	246	584	A	A	A	A（拡充）	令和2年度から行っている「地域の人づくり講座」等を通して地域学校協働活動を推進するための環境づくり、推進員の資質向上等を図ることが出来た。（例：農業体験、図書室の整理、職業講話等） 令和3年度推進員を通して参加したボランティア人数：1,401人（令和2年度：2,315人）（平成元年度：2,347人） また、地域学校協働本部を設置し、第1回の会議を開催。地域と学校をつなぐ地域学校協働推進員と学校連携担当教職員とで情報を共有し、コミュニティスクールとの一体的な取組の推進や活動の円滑化が図られた。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価一覧

事業名	事業の目的（目標・効果）	事業の内容	担当部署	事業の対象者	事業費（千円）		基本評価			総合評価	評価の説明等
					R3	R2	必要性	効率性	目標達成度		
31 中央公民館管理費	社会教育法に基づき、地域に根ざした教育活動を通して、市民の教養及び情操の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、地域福祉の増進に寄与する。	平成19年度から指定管理者制度を導入し、施設の使用許可に関する業務、趣味の講座や市民講座、万年青大学の開催、中央公民館まつりなどの自主事業を行う。	生涯学習課（社会教育係）	中央公民館施設利用者	21,216	20,719	B	A	A	B（継続）	施設の使用に関する業務を実施し、指定管理者による適切な運営管理が行われた。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和元年度、令和2年度に引き続き中央公民館まつりも中止した。
32 中央公民館施設改修費	中央公民館・市立図書館の施設利用者が快適に過ごせる環境を整備し、社会教育活動の推進を図る。	昭和48年に開設された施設であり老朽化が著しく、施設設備を安定的かつ長期的に使用するため各種の補修改修を実施する。	生涯学習課（社会教育係）	中央公民館施設及び図書館利用者	1,181	2,446	A	A	A	B（継続）	駐輪場の修繕や空調修理、枯れ木伐採などを実施した。また新型コロナウイルス感染症対策としてトイレの自動水栓設置やアルコールディスペンサー・アクリルパネル等を設置した。
33 図書館管理費	図書館法に基づき、図書、記録その他必要な資料を収集し、保存して一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクレーション等を資することを旨とする。	平成18年度から指定管理者制度を導入し、様々な年齢層の市民へ向けた読書活動の推進を図る。図書館・移動図書館での図書貸出業務、福祉施設や館内外でのおはなし会、小学生の社会科見学や中学生の職場体験も受け入れている。また図書館まつりや本の交換会などの自主事業も行っている。	生涯学習課（社会教育係）	図書館施設利用者	38,341	38,978	A	B	B	B（継続）	指定管理者制度導入で司書率が上がり図書貸出やレファレンスなどのサービス向上が図られている。 令和3年度は新型コロナウイルスの感染拡大による影響に加え、新図書館への移転準備作業に伴う12月末での休館により来館者数も貸出冊数も大幅に減少したが、放課後子ども教室と連携した「本の読み聞かせ」や、元アナウンサーの講演や地元劇団の紙芝居などを盛り込んだ「図書館まつり」の開催など、コロナ禍においてもできる限りの読書活動推進を行い、現図書館最後の一年を締めくくった。
34 【新規】市立図書館移転整備費	市立図書館を商業施設（あらおシティモール）に移転整備することで、図書館機能の質的向上を図り、生涯学習環境の充実を推進し、地域の活性化も目指していく。	荒尾シティプラン（紀伊國屋書店、本市の三者による連携協定）に基づき進める。施設整備はシティプランが行い、そのうち図書館部分に係る費用を市が負担する。	生涯学習課（社会教育係）	図書館施設利用者	689,545	0	A	A	A	D（完了）	令和2年11月5日の三者協定締結後、新図書館の基本方針を策定、多様な機能を備えた図書館となるための基本設計と実施設計と並行して、令和2年12月、令和3年6月の議会で補正予算を確保しながら取組を進めた。 新型コロナウイルス感染症の影響もあったものの、毎週オンライン会議を行い、整備に関わるスタッフで常に情報を共有し、官民一体となり取り組んだことでスケジュールどおりに進んだもの。書籍の運搬作業は遅延しそうだったが図書館スタッフの尽力や関連事業者の支援などもあり令和4年4月1日の開館を迎えることができた。
35 少年指導センター管理費	次代を担う青少年がたくましく豊かに育ち、非行のない明るい社会を目指して、街頭指導、各種研修会に取り組む。	専任指導員及び各地区の少年指導員による巡回・街頭指導、ヤングテレホンによる相談受付等を実施。学校・地域・家庭・関係機関との連携を図り、青少年の健全育成に努めている。	生涯学習課（社会教育係）	小中高校の児童と生徒	6,394	5,810	A	A	A	B（継続）	市内45名の地区指導員の令和元年度の活動状況は、登下校や巡回、街頭指導や会議など延べ626回、延べ従事者は1,788人である。 令和3年度は、地区指導員と各小学校との意見交換会を行い、危険箇所などの情報共有を図ったことで、地域と学校との良好な関係性の構築が図られた。今後も継続していきたい。
36 保健体育総務費	全市民が、自ら進んで参加するスポーツへの意識の高揚を図り、自主活動によるスポーツの生活化の実現を推進する。 市民が健康で心豊かな生活を営むための各層の体力に応じたスポーツ活動の場を提供し、全市民が生涯を通じて親しむことのできる施策を推進する。	青少年の健全育成を図るとともに、競技スポーツにおける技術の向上にも少年期からの取組が重要であることから、教室、大会等を通してスポーツに触れる機会を提供する。	生涯学習課（スポーツ振興係）	市民スポーツ団体等	5,729	5,718	A	A	B	B（継続）	R2年度より続くコロナ禍はスポーツ活動には大きな制限となり、競技スポーツや大会開催事業が中止となった。11月に「スポーツイベント再開に向けた感染症拡大予防ガイドライン」が改定され、徐々に小さな規模のイベントから再開しているが、厳しい状況が続いている。 体育協会や総合型スポーツクラブ、少年団についても、練習や講習会、小規模の大会等の活動は徐々に再開しているが、県民体育祭や全国大会等の大規模な大会はほぼ中止になった。 生涯スポーツの振興や競技力の向上、また定期的・継続的な活動を促進するため、スポーツ庁の指針等を遵守しながら市民のスポーツの機会を増やし、確保していく必要がある。
37 あらお子どもスポーツ教室事業費	児童が運動する機会を確保し、楽しみながら運動することを体験させることで、体を動かす基本動作を身につけるとともに、体力の維持向上を図りながらスポーツに対する興味や関心を高めていく。	荒尾市内の小学4年生～6年生を対象に、子どもたちを心豊かに健やかに育むために、安全安心な活動拠点である放課後の学校施設・時間を利用して、運動が苦手な児童でも楽しく安全に参加できる運動教室を実施。	生涯学習課（スポーツ振興係）	万田小・八幡小・桜山小の児童	2,046	2,401	B	B	D	B（継続）	令和元年度にモデル校として実施した万田・八幡・桜山小に、新たに有明小を加えた4校にて開講する予定であったが、新型コロナまん延防止等重点措置が熊本県において幾度も適用されたため、令和2年度に引き続き実施することを断念した。児童の体力向上を目的に開催している教室であるため、今後も継続していく。
38 【新規】東京オリンピック応援事業費	荒尾市内でスポーツに関する県規模の大会や、世界的な大会に出場する荒尾市出身の選手を応援するイベントを実施することにより、荒尾市の魅力の発信や訪者との交流促進、また市民の郷土愛や相互の連帯感の醸成を図り、更なる荒尾市でのスポーツの盛り上がりにより寄与するもの。	本市出身選手がオリンピック日本代表に選出された場合には、お祝いする横断幕・懸垂幕等を市内に掲示。また大会開催期間中（7/21～8/6）、選手が出場する試合について、荒尾総合文化センター小ホール（100名程度収容）にて、大型映像装置での競技実況放送を実施するもの。	生涯学習課（スポーツ振興係）	市民	0	0	B	B	D	D（完了）	新型コロナウイルス感染症の世界的流行を受け、東京オリンピックは2020年夏から1年延期して開催されたが、本市出身者が日本代表選手に選ばれなかったため、実施していない。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価一覧

事業名	事業の目的（目標・効果）	事業の内容	担当部署	事業の対象者	事業費 (千円)		基本評価			総合評価	評価の説明等
					R3	R2	必要性	効率性	目標達成度		
							A: ニーズが高く必要な事業 B: 一定のニーズがあり、必要性が高い C: ニーズはあるが、実状に適していない D: ニーズもなく実状にも適していない	A: 手法は適切である B: 手法は概ね適切である C: 手法は概ね適切であるが、一部見直しが必要 D: 手法を大幅に見直す必要がある	A: 十分達成できた B: 概ね達成できた C: やや不十分であった D: 不十分であった		
39 【新規】 荒尾市スポーツ推進基本計画策定事業費	計画を策定してから5年が経過し、本市を取り巻くスポーツ環境が変動する中での現状を踏まえ、各施策の達成状況、課題の検証及び評価の結果や、国の「第2期スポーツ基本計画」「荒尾市第6次総合計画」を考慮するとともに、将来に向けた本市のスポーツ推進の方向性を示すために、中間見直しを実施するもの。 また、スポーツ基本法及び県のスポーツ振興計画との整合性・関連性を図りながら、市独自の具体的施策を見直し、豊かな市民のスポーツライフの実現を目指す。	荒尾市スポーツ推進審議会に、本計画見直しについて教育委員会から諮問し、4回の審議会を開催し、答申があったものを基に計画見直しを行う。 計画見直しあたっては、現況調査や市民の意見を反映させるため市民アンケートを実施した。	生涯学習課 (スポーツ振興係)	市民	929	0	A	A	A	D (完了)	計画の進捗状況、社会経済情勢、政策動向等々の変化に対応するため、スポーツ推進審議会の答申を基に今後の指針となる「荒尾市スポーツ推進基本計画」を見直すことができた。 熊本県にまん延防止等重点措置が幾度も適用され、行動制限等があったために審議会開催することは困難であったが、書面に対応できるものは書面決議に切り替え、年度内に完了することができた。 令和4年度～令和8年度までの5年間、計画に基づき、荒尾市のスポーツ振興を図っていく。
40 運動公園管理費	運動公園各施設の効果的な運営を図る。	市民の憩いの場、スポーツの競技力向上が図られる場としての機能はもちろん、健康体力づくりの場として、広く市民に親しまれている。運動公園各施設の効果的な運営を図るため、施設相互の連携をとる必要があることから、公園内の施設の管理運営を一括して指定管理者が管理運営を行うことで、市民サービスの向上を図っている。	生涯学習課 (スポーツ振興係)	市民	47,417	48,374	A	A	B	B (継続)	熊本県にまん延防止等重点措置が適用されるなどの状況が続いたが、社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防のためのガイドラインに従いながら、感染対策を適切に講じつつ状況に応じて施設の利用制限を緩和し、市民に開放した。スポーツ活動の場を提供することは、市民の健康維持・体力向上にとっても重要であるため、今後も指定管理者と運動公園の効果的な運営を行うとともに、必要に応じた感染予防策を講じて施設を開放するなど適切な判断をし、市民のスポーツの場を確保していく。
41 地域体育館維持管理事業	地域体育館を地域住民に開放し、生涯スポーツ、地域スポーツの推進の場として有効活用を図る。	地域体育館のワックス清掃をはじめ、維持管理を行う。	生涯学習課 (スポーツ振興係)	市民	1,161	1,172	A	A	B	B (継続)	地域体育館についても社会体育施設の再開に向けた感染拡大予防のためのガイドラインに従いながら、感染対策を適切に講じつつ状況に応じて施設の利用制限を緩和し、市民に開放した。地域住民のニーズに応えられるよう、必要に応じた感染予防策を講じて施設を開放するなど適切な判断をし、安心・安全に利用できる施設を提供していく。
42 地域体育館施設改修費	地域体育館を地域住民に開放し、生涯スポーツ、地域スポーツの推進の場として有効活用を図る。	地域体育館の突発的な修繕等を行う。	生涯学習課 (スポーツ振興係)	市民	418	316	A	A	A	B (継続)	地域体育館は施設の老朽化が著しいため、突発的に発生したものの対応が主である。年々件数が増加している。令和3年度は体育館の外灯や天井照明の取替、またトイレや扉などの建具の修繕を実施した。 住民の日常的なスポーツ活動の身近な施設として重要な役割を果たしている地域体育館が、施設の不備で活動を制限されることなく円滑に使用されることにより、地域住民の健康増進、体力増進が図られている。
43 運動公園施設改修費	老朽化が著しい運動公園内の整備及び突発的な修繕に対応するものである。 運動公園の指定管理に係る経費に含まれる修繕費は1件30万円未満を対象（年間120万円の予算）としていることから、1件30万円を超える修繕は原則行政で対応する。 運動公園内の施設については、これまでも各種補修、改修を行ってきている。	1件30万円を超える突発的な修繕への対応。	生涯学習課 (スポーツ振興係)	市民	17,714	18,559	A	A	A	B (継続)	ゲートボール場南側斜面は3年に一度伐採を行っていたが、今回は斜面に防草シート張付けを行い、下段住宅の環境改善と管理コストの軽減を図った。また故障していた児童公園街灯をLEDに更新し、消防設備点検で指摘を受けた不良個所の修繕を実施した。 突発的に発生したあじさい公園の法面崩壊・市民体育館及び弓道場の雨漏り、市民プール機械室地下タンク定水位弁故障、体育センター雨水捌詰まり、児童公園ブランコの修繕を実施した。 その他の修繕については、協定に基づき指定管理者が対応した。特に緊急を要する修繕については、市と協議の上、指定管理者の自主事業として積極的に実施された。
44 荒尾運動公園施設長寿命化計画事業費	運動公園施設の長寿命化計画を策定し、予防修繕を取り入れることで公園施設の長寿命化を図り、都市公園の安全性の確保とともに、維持管理経費の「縮減」と「平準化」を図ることを目的とする。 また、長寿命化計画を踏まえ、運動公園施設の再配置計画を策定し、関連する計画等との整合性を図りながら、今後の運動公園施設の再配置を行うための指針として位置付ける。	運動公園施設の健全度調査を実施し、健全度・緊急度判定を行った上で策定した長寿命化計画の内容等を踏まえ、利用者が清潔で使いやすい施設を提供するため、市民プールの循環浄化装置を改修し、施設の長寿命化を図る。	生涯学習課 (スポーツ振興係)	運動公園施設	35,102	36,465	A	A	A	B (継続)	令和3年度については市民プールトイレと陸上競技場用具倉庫の改修を実施した。設備が古く老朽化していたため衛生面や快適性が不十分だったが、改修したことにより施設機能が向上し、利用者の快適性や利便性を確保することが出来た。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

	事業名	概評
1	ピロリ菌検査事業 (事務局管理費内)	将来の荒尾を担う子どもたちに、ピロリ菌検査を実施することで、早い段階から予防医療への意識付けを行っていくことは有意義なことだと思う。医療機関の意見を十分考慮しながら、今後も予防医療の必要性を周知していただきたい。
2	語学指導外国語青年 招致事業	今年度は4人体制となったものの、事業の遂行に支障なくきめ細やかな指導が行われている。授業外での活動もALT本人はもとより、関係する団体・人などに大いに有効と思われるので、積極的な機会の提供についても検討していただきたい。また、本市の英語教育の充実のためにも未就学児童への事業の拡大を期待する。
3	授業改善アドバイザー事業	授業改善アドバイザーの指導、助言により「進化型あらおベーシック」が推進されている。それにより、教職員の共通理解が深まり、全校で授業改善の取り組みがなされ、子どもたちには主体的な対話を通して協働的に授業を学ぶという姿勢が出来てきている。今後も「あらおベーシック」の理念に基づき、更なる授業力の向上に努められたい。
4	【事業名変更・拡充】 英語教育充実事業費	生徒たち全員が、学力に応じて実用英語技能検定受験に取り組む体制を構築することで、生徒たちの英語学習意欲の向上がみられている。また、市内全教職員を対象とした英語教育研修会の開催により教職員のスキルアップが図られていることから、英語力の更なる向上のためにも事業を継続して実施していただきたい。
5	新型コロナウイルス 対策事業費（教育）	新型コロナウイルス感染拡大防止に対応するため、各小中学校の要望に沿った備品、消耗品等の早急な購入、設置がなされている。また、教育活動においては「新しい生活様式」に取り組み、適切な指導の実施により、各学校への感染拡大の事例もなく教育活動が円滑に行われていることから、今後も継続して実施していただきたい。
6	小学校施設改修	各小学校ともに施設の老朽化は著しいが、限られた予算の中で各学校からの要望を精査し、計画的に補修改修がなされている。今後も快適性・利便性・安全性を重視し、各小学校の要望も踏まえながら、継続的かつ計画的な修繕、改修に努められたい。
7	荒尾市就学援助事業	新型コロナウイルス感染症の影響による家計急変世帯に加え豪雨被災世帯等も対象となり、経済的な理由により就学困難と認められる子どもたちの支援に大いに役立っている。事務の効率化を図りながらスムーズに援助できるよう努めていただきたい。
8	市教委指定研究推進 事業（小中学校）	府本小学校では、学校独自のテーマに基づき課題に取り組み、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から研究成果の発表会こそできなかったものの、オンライン発表会という新たな形で研究成果を発表している。また、荒尾第三中学校においては、子どもの居場所作りを課題に取り組み、研究発表会においてその研究成果を発表している。これらの事業は、学習意欲を高めるとともに学力の向上にも繋がっていることから、当該学校だけのレベルアップにとどまらず、市内各学校への波及効果により、市全体の教育レベルが向上していくことを期待する。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

	事業名	概 評
9	コミュニティ・スクール導入事業費	学校運営、教育活動に対して「地域の声」を反映し、より充実した学校教育を目指していくため、実施している3校の実績を十分に検証され、令和4年から未実施の10校でも学校運営協議会がスムーズに導入できるよう準備を進められたい。
10	小中学校ICT環境整備事業費	ICT支援員2名が増員されたことで、「荒尾市教育ICT整備計画」に基づき整備された児童生徒1人1台のタブレット端末等や校務支援システムの活用推進に繋がっている。今後も学校ICT化の充実に向けた環境整備、維持に努められたい。
11	小中学校子ども未来文庫整備事業	子ども未来基金の活用により、各学校が独自に選定した図書、新聞を購入することで、図書館の充実、NIEの推進を図っていくことは、読書への意欲、さらには学習意欲へ繋がっていくものと期待する。
12	中学校施設改修	各中学校の老朽化は著しいが、限られた予算の中で各学校からの要望を精査し、計画的に補修改修がなされている。生徒の学習意欲向上のためにも、今後も快適性・利便性・安全性を重視し、各中学校の要望も踏まえながら、継続的かつ計画的な修繕、改修に努められたい。
13	【新規】教育振興基本計画策定事業費	「郷土を愛し未来を創る荒尾の人づくり」を基本理念に、第2期教育振興基本計画が策定されている。行政、学校、家庭、地域等あらゆる関係機関との連携を密にしながら、策定された各施策の実現に努められたい。
14	【新規】中学校フリースクール事業費	年々増加し、各学校の課題となっている不登校児童生徒の対策として、荒尾第三中学校に「ハートフルルーム」を設置し、関連対策を施したことで、同校では不登校生徒の増加が見られていない。同校での取組を十分検証され、学校復帰できる児童生徒が一人でも増えていくよう事業の拡大に取り組んでいただきたい。
15	学校給食費無償化事業費	本市の将来を担う子どもたちに対し、子育て世代の経済的負担の軽減となっている。安心して子育てできるまちづくりに繋げていくためにも今後も継続していただきたい。
16	給食センター整備推進事業費	最大の課題であった給食センターの建替整備工事が順調に進んでいる。児童生徒に、より安心安全な給食が提供出来るよう、令和4年9月の稼働開始に向け、工事の完成に努められたい。
17	放課後子ども教室推進事業	空き教室など安心安全な活動場所を確保し、地域の方々の参画による、学習や体験、交流の実施、また他事業、他施設と連携した活動の実施は、社会教育の視点から様々な展開の可能性はある。今後も子供たちの期待に応え続けられるよう人材の確保とともに講師の養成にも努めていただきたい。
18	学校支援地域本部事業 学校支援地域本部事業（拡充分）	コロナ禍のなか支援ボランティアの確保は困難ではあったにもかかわらず、それぞれの学校ともに状況に応じた新たな活動が行われている。今後とも人材の発掘に力を入れ、人材の確保を図り、学校と地域の協働により更なる教育力の向上に努めていただきたい。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：宮辺 博幸

	事業名	概 評
19	中央公民館管理費	指定管理者により、適切な運営管理が行われている。今後も、新型コロナ対策には十分配慮しながらも、専門性の向上と特色ある館運営を期待したい。
20	図書館管理費	指定管理者の導入により、図書貸し出しやレファレンスなどのサービスは向上し、図書館利用推進のための様々な取り組みがなされている。新型コロナの影響により来館者数、貸出冊数の大幅減はあったが、新図書館への移転による新たな取り組みが図書館利用推進に繋がっていくよう努めていただきたい。
21	【新規】 市立図書館移転整備費	新型コロナの影響は大きかったものの、計画の遅れもなく、予定どおりに開館できることは職員をはじめ、関係各位の努力の結果といえる。既存の商業施設に官民の連携協定により移転整備することで、生涯学習拠点施設として図書館機能の質的向上やサービスの充実が見込まれ、利便性もよいことから、新たな取り組みによる来館者数、貸出冊数の大幅の増加を期待する。
22	あらお子どもスポーツ教室事業費	新型コロナの影響もあり実施は難しかったと思うが、子どもたちに運動する機会を提供することで、スポーツに対する興味や関心を高め、体力の維持向上に繋げていくことは大切なことであると思う。再開後は現在実施している学校のみならず1校でも多くの学校で実施出来ることを期待する。
23	【新規】 荒尾市スポーツ振興基本計画策定事業費	スポーツ環境の変化に応じ、現状の把握と市民の意見を十分取り入れた「荒尾市スポーツ振興基本計画」が策定されている。今後は、計画に沿った取組の実施により、荒尾市のスポーツ振興を図ることで、市民の健康増進、体力の維持に繋げていただきたい。
24	運動公園管理費	運動公園は、競技スポーツの底辺拡大と競技力向上の場であるとともに市民の健康、体力づくりには欠かせない場所でもある。新型コロナ対策には十分配慮しながらも、運営管理には適切かつ迅速に対応され、市民サービスの向上に繋げていただきたい。
25	荒尾運動公園施設長 寿命化計画事業費	策定された長寿命化計画に基づき、予防保全的な維持管理を行うことで、安全性の確保に努められている。今後とも利用者が安心、安全に使用できるよう、建物の機能や設備の維持管理に努められたい。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：古江 佳織

	事業名	概評
1	ピロリ菌検査事業(事務局管理費内)	がん検診の啓発と予防医療への意識付けにとっても有効な事業である。しかしながら若年者における早期検査の実施について今後検討するとのことだった。検査の実施が終了した場合においても、啓発の方法を検討され、子どものうちから予防医療を理解し、自ら行動できるよう学ぶ機会の提供を継続してほしい。
2	語学指導外国語青年招致事業	児童生徒の外国語教育の充実と教員へ向けた研修機会の確保が実現されている。また、積極的なICTの活用と共に、様々な場面でALTが機能した活動がなされていると感じる。今後は未就学児へ向けた活動拡大も検討されており、早い段階から子どもたちが外国の文化を身近に学び、触れ合う機会の充実を期待したい。
3	授業改善アドバイザー事業	市が掲げる教育理念が次の段階へ移行し、さらなる発展が期待される。それに対応した授業改善アドバイザーによる指導機会が提供され、子どもたちの主体的かつ協働的な学びにつながっている。引き続き教職員の研修機会を充実し、児童生徒の学力水準の底上げと授業の質向上に努めていただきたい。
4	【事業名変更・拡充】英語教育充実事業費	英語検定の受験について、学習状況に応じた希望級受験が可能なこと、公平な受験機会の確保により、生徒も意欲的に取り組むことができている。生徒自身が学習到達度を確認できる機会となるため、今後も続けてほしい。教職員に対し研修の機会も整備され、さらなる英語教育の充実を期待する。
5	新型コロナウイルス対策事業費(教育)	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため十分な対策が実施されている。感染の終息が不透明な中、感染防止が必要な状況は続くため、児童生徒が安全な学校生活を継続できるよう、事業の継続及び対策実施が必要である。
6	小学校施設改修	必要箇所に計画的な補修改修がなされている。引き続き児童生徒が安全に学習できる環境整備のため計画的に補修改修を進めていただきたい。新型コロナウイルス感染症含め、感染対策に必要な対応は今後も継続していただきたい。
7	荒尾市就学援助事業	就学支援が必要な児童生徒の割合が高く、子どもたちが安心して学ぶために重要な事業である。子どもたちが安心して学業に専念できるよう、迅速に対応できる仕組みを整備及び、事業継続を期待する。
8	市教委指定研究推進事業(小中学校)	指定小学校においては、既存の起業に関する取組を活用し研究され、地域と協働したキャリア教育の実施及び子どもたちの主体的な学習につながる結果が示された。また指定中学校では、子どもの居場所づくりについて実態に即したテーマで研究に取り組み、貴重な成果が得られている。オンライン等で研究発表会を開催され、市内学校の教育振興につながっている。
9	コミュニティ・スクール導入事業費	市内全小中学校に設置され、当初の目標が達成されたことを評価する。今後は、学校・保護者・地域住民が事業について共通理解を深め、積極的な活動が継続できる体制の整備が望まれる。学校教育に各地域の特色あふれる支援活動が充実することを期待する。
10	小中学校ICT環境整備事業費	ICT導入後の管理・運営が適切に実施されている。教職員の使用環境の整備のため、ICT支援員の増員や独自の研修の開催など、活用する対象のバックアップ体制も充実されている。引き続き、児童生徒及び教職員が活用のしやすい環境を継続すること、学校と地域の交流・郷土学習に活用されることを期待する。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：古江 佳織

	事業名	概評
11	【新規】 小中学校子ども未来 文庫整備事業	各校の希望図書を購入、NIEにおいても活動の推進が図られており、子どもたちの読書意欲の向上と共に学習環境が整備されている。各学校が特色ある読書環境の充実に向け、事業が継続されることを期待する。
12	中学校施設改修	各校の要望から状況に即した計画及び調整がなされ、補修改修を実施されている。新型コロナウイルス感染対策においても、衛生面の整備について、必要な対応がなされている。老朽化の問題はあるが、引き続き、安心安全な環境の確保のため計画的な改修を期待する。
13	【新規】教育振興基本 計画策定事業費	第2期荒尾市教育振興基本計画策定に向け、策定委員会の設置及び審議により、市民と教職員などがもつニーズや現状の課題を多面的に分析・検討され、発展性のある計画に移行されている。
14	【新規】 中学校フリースクール 事業費	「ハートフルルーム」での活動により、設置中学校の不登校生徒の増加が見られないことから、支援が充実が示されている。事業9において研究発表会の場で成果を共有されており、研究成果を市中の学校での不登校対策に取り入れ、対象児童生徒が学び続けられる環境を整えてほしい。
15	学校給食費無償化事業 費	保護者の経済的負担の軽減により子育て支援に繋がる事業であり、今後も継続していただきたい。事業の実施自体が食育の機会となり、保護者を含め児童生徒に食べることの大切さ・食事に関する正しい知識と習慣を再認識する取り組みとなっている。
16	給食センター整備推 進事業費	基本設計及び実施設計に準じた実施がされている。また、確実な工程管理のもと着工・完成が実行されている。今後は安心安全な給食の提供に向け開館後の管理運営へつなげてほしい。
17	放課後子ども教室推 進事業	感染状況下において回数を制限しながらも、郷土の学びや地域の様々な団体による活動が充実している。今後も子どもたちの居場所の確保と参加しやすい活動の充実が期待される。
18	学校支援地域本部事 業  学校支援地域本部事 業（拡充分）	前年度に比べボランティアの参加者は増加しており、事業が目指す学校と地域が協働した活動の実施がなされている。地域の人たちが学ぶ機会も準備され、教育へかかわりやすい環境も整えられている。活動を通じて子どもたちと地域の繋がりが強化できることを期待する。
19	中央公民館管理費	施設に関する管理運営が適切になされている。新型コロナウイルス感染拡大状況が続いており、公民館を利用した活動の調整は困難なことも多いが、地域住民が可能な限り利用できるよう対策を行い、教育活動機会の充実に務めていただきたい。
20	図書館管理費	感染拡大による閉館や移転準備等で利用者の減少はあるものの、図書館祭りの開催・放課後子ども教室と連携した読み聞かせなど市民の読書活動推進のため、多様な活動を実践されている。指定管理者による利用しやすい環境が整備されている。

令和3年度荒尾市教育委員会の事務点検及び評価に関する概評

事務点検評価委員：古江 佳織

	事業名	概評
21	【新規】 市立図書館移転整備費	新図書館の基本方針策定、必要予算の確保、定期的な会議の開催と図書館移転に向けた準備と実施により、新しい市立図書館が開館されたことをうれしく思う。以前の図書館に比べ、利用しやすい場所であること、IC導入・電子書籍など利便性も高まり、多様な世代の方が活用される場になることを期待する。
22	あらお子どもスポーツ教室事業費	新型コロナウイルス感染拡大により開催を断念された結果だったが、実施に向けた準備や新たな実施拠点の追加など、積極的な取り組みがなされている。今後も感染状況は続くことが見込まれるが、対策等検討され、多くの活動が実現できることを期待する。
23	【新規】 荒尾市スポーツ振興基本計画策定事業費	現在の社会情勢、政策、また、市民アンケートによる意見や調査から、市の現状と問題に即した計画に改革されている。これからの荒尾市のスポーツ関連事業の振興を期待する。
24	運動公園管理費	指定管理者により、適切に管理されている。利用機会の緩和がされており、感染拡大予防のガイドラインによる対策を行いながら、引き続き市民が安心・安全な利用に向け管理されることを期待する。
25	荒尾運動公園施設長寿命化計画事業費	計画に準じて必要修繕・改修がなされている。施設自体は古いものであっても、衛生設備の整備により利用者の安全な施設利用につながったことと思う。引き続き計画の遂行により適切に修繕・改修に努め、市民のスポーツ振興と健康増進のため施設管理を期待する。